

## 令和3年度第2回 庄原市地域公共交通会議 議事録

日 時 令和4年1月7日(金) 午後3時00分～午後4時20分  
場 所 庄原市本庁舎5階第1委員会室  
出席委員 加藤博和会長 山根英徳副会長(代理:實兼氏) 石田光雄委員 田邊良三委員  
岡崎輝子委員 児島茂春委員 田村富夫委員 今田能久委員 松本佳博委員  
山本直人委員(代理:山口氏) 伊本浩之委員(代理:石原氏)  
土井幹雄委員(代理:坂田氏) 佐々木満委員(代理:本平氏)  
石川芳秀委員(代理:嶋田氏) 後藤茂行委員(代理:堀田氏)  
藤井剛委員(代理:瀬戸氏) 森岡浩委員  
委員以外の  
出席者 備北交通(株) 稲垣氏 西日本旅客鉄道株式会社広島支社 田中氏  
広島県地域政策局交通担当 浜村氏  
欠席委員 深川尚子委員 山下修委員 石田剛史委員 尾野素子委員  
事務局 毛利久子市民生活課長  
荒木優一市民生活課専門員  
宮口雄三市民生活課市民生活係主任主事

### 1 開 会

会長:

昨年は皆様のご協力で庄原市地域公共交通計画が策定され、今年度も含めた5年間の新たなチャレンジが始まった。年は明けたが引き続き計画を実行する必要があるので、皆様のお力添えをお願いします。

事務局:

委員出席者数は17名、欠席4名で、本会議の成立を報告。  
会議の内容は公表となっている。議事録署名は会長と事務局長が行う。  
事務局から委員以外の出席者を紹介

- ・備北交通(株) 稲垣氏
- ・西日本旅客鉄道株式会社広島支社 田中氏
- ・広島県地域政策局交通担当 浜村氏

### 2 資料確認

- ・会議「次第」
- ・庄原市地域公共交通会議委員名簿
- ・第2回「芸備線 庄原市・新見市エリアの利用促進等に関する検討会議」についての資料(資料1-1～1-2)
- ・令和3年度地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価についての資料(資料2-1～2-4)

事務局:

前回9月30日開催の公共交通会議の資料の修正を説明する。本日配布の資料「R3.9.30公共交通会議資料修正 資料1 P.6」を確認いただき、事業主体の箇所①が記載されていなかったため、正しい記載をしたものを配布している。続いて「R3.9.30公共交通会議資料修正 資料4 P.11」を確認いただき、東城地域Ma a S実証運行事業の運賃表に一部誤りがあったため、修正したものを配布している。

#### 4 協議事項

事務局：

次第では「3 報告事項」「4 協議事項」となっているが、「3 報告事項」で時間を取りたいため、先に「4 協議事項」からお願いしたい。

令和3年度地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について 【資料2-1～2-4】  
事務局から令和3年度地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について説明

##### 《質疑・意見交換》

会長：

資料2-3の事業評価について、③前回の事業評価結果の反映状況の中で「市内観光施設の周遊及び接続路線との乗り継ぎを考慮しながら、ダイヤ改正の検討を行った」とあるが、具体的にどのような施設等を念頭に検討したのか。

また、⑤の利用者人数について、実績は5.4人で目標の5.9人を下回っているが、昨年度の5.1人と比較すると上回っているとある。高野-三次間という長距離運行の中で、どの地域からの利用が多いのかなど具体的な利用者分析を行ってテコ入れをする必要もあると思われるが、5.4人という数字が具体的にどのようなことを意味しているのかを教えてください。

事務局：

③のダイヤ改正の検討について、この系統が三次市内で高速バスや、三次市内のものけミュージアム等または庄原市内につながっている西城-三次間の三城線につながる路線であり、それらのダイヤに対して検討は行ったが改正に至っていない。

⑤の利用実態について、詳細な内訳については確認が取れていないが、実際にどのような利用が多いのかという分析を行い今後に活かしていきたい。

##### 《承認》

全員承認

#### 3 報告事項

第2回「芸備線 庄原市・新見市エリアの利用促進等に関する検討会議」について【資料1-1～1-2】

事務局から第2回「芸備線 庄原市・新見市エリアの利用促進等に関する検討会議」について説明

##### 《質疑・意見交換》

会長：

芸備線のあり方に関する検討会議が6月の申入れ以降開催されており、随時委員の皆さんにも情報提供が行われるとのことである。

また、前回の公共交通会議にて委員より「公共交通会議でも芸備線について問題提起をさせていただき、委員の皆さんの意見を伺いたい」との発言があった。今回の公共交通会議にて、これまでのJRの取り組みや問題提起、考え方について補足的な説明をお願いする。

委員：

秋の行楽シーズンにJRとしても臨時列車等の運行を実施させていただいたが、それに合わせて地域の皆さんにたくさんの取り組みを行っていただき、感謝を申し上げたい。秋の臨時列車の利用状況等の試算については、検討会議にて報告をし、振り返りを行いたい。また、合わせて地域の公共交通に関する問題でもあるので、この地域公共交通会議でも継続して報告をさせていただければと思う。

詳細については集計中のため差し控えさせていただくが、概観としてイベント実施やツアー造成による観光利用は比較的に利用いただいている。特に土・日・祝の昼間の時間帯が多く利用されている。しかし、平日や土日の朝晩の時間帯は利用促進期間前と比べてもあまり変化は見られない。いずれにしても、今回の取り組みを通じて地域の皆さんが、芸備線や公共交通に興味を持っていただいたのはひとつの大きな成果ではないかと感じている。特に地元有志で実現したカーブ号の運行は他の地域では見られなかった取り組みである。

JRの取り組みの補足となるが、資料1-2の15~17ページは観光に関する取り組みであり、比較的成果が出ているところであるが、18~19ページは地域の皆さんにどのように利用していただくかの観点で示した資料である。JR線に期待するサービスとして「乗りたい時間に乗れる」との声が多くあり、このニーズに応える形としてバスとの連携などを提案している。これに関しては行政とも調整・相談をしながら進めていきたいと思う。ひとつの良い事例として、三次-広島間で「どっちも割切符」を発売しており、輸送資源の総動員の観点として非常に多くの利用をいただいている。コロナ禍の現在、どのように転ぶかは不透明だがこのような観点は非常に大切である。引き続き利用促進には取り組んでいくが、地域の皆さんがどのように動いているのか、どのようなことを求めているのかについては、今後もつづきを見ていきたい。

最後に、地域公共交通会議の位置付けについてである。JRとしても、鉄道が地域交通として住民の皆さんにいかに使っていただくかが一番大切な要素だと認識している。そのため、地域公共交通計画に関する申入れをさせていただいた。地域公共交通計画に関する根拠法として地域公共交通活性化再生法があるが、これはまちづくりと連携して交通を考える法律であるため、JRとしてもまちづくりや地域が元気になっている姿にどういった交通がふさわしいのかという議論をさせていただきたい。

私自身、西日本管内の地域公共交通会議に出席させていただいているが、鉄道は補助金が入っていないということがあるためか、このような場で議論されることが非常に少なかったと思う。しかし、今回芸備線では申入れをさせていただき、皆さんの意見を交わすことが大切であると認識しているほか、他のエリアでも同様に鉄道に関して意見交換をしたいと思っている。ぜひ、皆さんの意見をいただければと思う。

会長：

臨時列車について、観光利用は比較的好調であったが、日常生活での利用については大きな変化が見られていないといったことや、JRとして芸備線に関する対応やまちづくりと連携した公共交通としての鉄道ということで公共交通会議の皆さんの意見をいただきたいといったことであったが、質問や意見はあるか。

委員：

備北丘陵公園のイルミネーションの集客が増えており、車の渋滞が中国道の本線まで伸びたり、三次方面は山内まで伸びていたりしている状況がある。JRもイルミネーションに合わせて臨時便等を実施されているが、今年の利用者が増えているのかが分かれば教えていただきたい。また、自動車から列車やシャトルバスへシフトしていくと、来園者の利便性につながると思われるので、イルミネーションに合わせた臨時便の状況について教えていただきたい。

委員

観光の増便施策として、イルミネーションの帰路で利用いただくよう臨時列車を運行させていただいた。ただ、庄原-三次間で備後庄原駅発が19時23分といった少し早めのダイヤとなっている。この臨時便については比較的に利用につながっていない状況であり、鉄道と公園の距離が遠いことが課題と思われる。なお、資料では増便期間が12月5日となっているが、現在も運行しており、イルミネーション期間の運行を検討している。

また、JRが作成している観光アプリでも、イルミネーションの紹介をさせていただいているが、鉄道利用までつながっていない。一方でバスと連携をした旅行商品を作っていただいております、こういった商品も必要だと思われる。

委員：

イルミネーション対策として、備北交通及びJRに協力いただきツアーを造成し、約130人が利用された。ツアー行程は、広島市から三次市まで高速バスを、三次―備北丘陵公園間は往路・復路ともに特別バスを利用し、三次市から広島市までの帰路は芸備線を利用するといったものである。比較的若い年代の方も利用され好評であった。

会長：

渋滞には、三次―備北丘陵公園間のシャトルバスも巻き込まれたのか。

委員：

DMOで造成されたツアーでも、シャトルバスの動線が一般車両と同じなため、特定の土曜日には渋滞に巻き込まれている。一般車両とは別に特別な経路を組むなどが課題として残った部分である。

会長：

捌ける人数などの面もあるが、グリーンスローモビリティなどの小型車両で、七塚駅辺りからピストン輸送を行えば、鉄道の大量輸送を生かしたり、一般車両の車列を縫ったりした運行ができるかもしれない。

いずれにしても、鉄道とイルミネーションによる利用の相乗効果は臨時列車には表れてこなかったとのこと。

委員：

公共交通全体の利用が理想的であり、グリーンスローモビリティやバスとの連携など、いかに地域に公共交通を利用して来ていただくかという観点が大切だと思っている。引き続きそういった観点で取り組んできたい。

委員：

一般の道路で災害があった場合、比較的早く復旧がされているが、JRの場合自費での復旧のため非常に長期間の運行ストップが起これ、利用ができない期間も長くなっている。高齢者の利用は通院や買い物など毎日の利用となっているため、老連としても一日も早い復旧をお願いする必要がある。JRも国費を使った災害復旧ができれば、早期の復旧が可能になるのではないだろうか。

事務局：

災害復旧に関しては、庄原市としても大きな課題として認識している。昨年、東城でも大きな災害があり、JRの皆さんには復旧作業をしていただいた。その際、JR西日本には災害復旧に対する国費の助成がないという状況が分かったため、今年度、市長会等を通じて災害復旧や防災事業に対する国の応援をいただきたいという要望を上げている。

なお、老人クラブからの発言ということで、より乗りやすいようにという部分では、JRの資料18ページに「三次駅での乗り換え時間を拡大」と記載している。庄原―広島間では三次駅での乗り換えが必要であり、乗り換え時間も3分で使いにくいという意見があることをJRへお伝えしたところ、今年の10月から乗り換え時間を5分まで伸ばしていただいた。また、三次駅にエレベーターを設置するなど、乗り換えについてできるところでJRも対応いただいていることを紹介する。

委員：

芸備線が無くなることはやっぱり怖いことで、地域の中でもなんとかしたいという思いは強く持っているが、日常的に乗車するところまではなかなか難しい。芸備線の利用に対して市の助成があるが、木次線は対象になるのか。

事務局：

5人以上で利用いただいた場合、庄原市内の駅から木次線では木次駅まで対象となるので、ぜひ利用いただきたい。

地域での盛り上がりという部分では、いちばんづくり課の事業で沿線地域の皆さんにお声掛けをさせていただき地域チームの設立を相談させていただいている。春から本格的に相談も始まると思われるので、ぜひご協力をお願いしたい。また、その際は乗るといふ部分も推進していただきたい。

委員：

カーラッピング列車が運行したとき、七塚駅にて東自治振興区で歓迎の旗振りを行った。先ほど説明のあった地域チームのプロジェクト推進会議について東自治振興区にも相談があったが、まだどのように動けばいいか思案しているところである。本格始動は4月からとのことによろしいか。

事務局：

年度内で動きたいと考えているが、コロナの関係で集まることが難しくなっている。できるだけ早いうちの立ち上げを行いたい、今後についてもいちばんづくり課と調整をしながらご相談をさせていただきたい。

委員：

これまでの市民生活課の「庄原市芸備線の存続に関する協議会」と、いちばんづくり課の「プロジェクト推進会議」とふたつの形が出来上がりお互い協力をするとのことだが、考え方は両方とも同じということによろしいか。

事務局：

プロジェクト推進会議は、地域の皆さんが発案されたものがスピーディーに動けるよう、実働部隊としてできたもの。方向性は一緒に連携しながら進むという認識で間違いはない。

会長：

沿線以外の地域の芸備線の係わりや関心に対して、市の施策等はあるのか。三江線の時も沿線地域は関心が高いが、それ以外はあまりということがあった。

事務局：

現在、プロジェクト推進会議で進めているのは、まずは沿線地域でしっかり取り組みということだが、芸備線の利用促進は庄原市全体の課題であるため、イベントをはじめ、できるだけ広く呼びかけて一緒に動いていきたいと考えている。

委員：

芸備線は昔と比べると本数も減り不便に感じている。また、市全体での利用促進を図るためには、駅に行くまでの方法も考える必要がある。

事務局：

いちばんづくり課の事業に、利用しやすいダイヤ等を調べる利便性向上についての調査事業があり、二次交通も合わせた検討になると思われる。その際は、交通事業者の皆さんにもご協力をお願いしたい。

会長：

資料1-2の27ページに、新見市の取り組みで哲西地域芸備線利用促進事業があるが、予約型乗合タクシーの導入や市営バスのダイヤ変更・増便等で二次交通を補う形になっているようである。

広島県で本日からモビリティマネジメントが開始されたことだったが、委員から補足やそのほかの県の取り組みについて説明をお願いしたい。

委員：

今日から庄原市内の高校生を対象に、高校生モビリティマネジメントとして、今まで芸備線に通っていない学生に一月間無料定期を渡し、試しに利用をしていただくといったものである。この機会に今まで芸備線に乗ったことがない学生に利用をしてもらい、芸備線の利便性や魅力を広めてもらうモニター事業となっている。初日の今日はテレビ取材も入っており、高校生の鋭い生の声も収録されている。

そのほか広島県で色々調べている中で「駅から目的地までどのように行けばいいのかわからない」といった声が多くあった。沿線の事業者の皆さんをはじめ、多くの方々の協力を得ながら、芸備線は地域の結節点であり、色々なところへ行けることをPR・整理したい。

会長：

高校生モビリティマネジメントの実績等をまた紹介いただければと思う。

委員：

庄原市にはキャッシュレス決済カードとして「なみか・ほろか」があり、保有率では市内の90%の方が所持しているが、常時利用しているのは1万人ぐらいとなっており、もう少し使える場を広げたいと考えている。その中のひとつとして、駅で乗車券購入ができないかをJRへもお願いしているので、引き続き試験的でもよいので検討いただければと思う。

また、二次交通の充実に加え、駅そのものの活性化も大切であると思う。10月に開催した駅前マルシェでは多くの方に来ていただき、このようなにぎわい作りも必要であるので、我々も考えていきたい。

委員：

備北商工会の管内は沿線地域内と外となっているが、来年度について市へ、商工3団体で芸備線のにぎわい作りに参加させていただき一緒に盛り上げていきたいという考えを持っている。

委員：

鉄道利用の際に「なみか・ほろか」を使うことができれば、カードを活用して利用者の属性や男女別・年齢など分析が可能となり、次の利用促進につなげることができるのではないかなと思う。

そのほか、岡山市内でバスや市電が無料で利用できるキャンペーンが実施されたというニュースを見たが、普段よりも2～3倍の利用があったという。同様のキャンペーン等を行うことで、まずは利用してもらい、それに合わせて駅でもイベントを行えば、地域内外の利用も促せるのではないかなと思うので、このような取り組みも検討いただきたい。

委員：

このたびの赤いカープラッピング列車が雪景色の中を走るととても画になる。これを利用し、特に関西圏の鉄道写真を撮る人たちから庄原市へお金を落としてもらうことも考えていければよいのではないだろうか。

委員：

道路管理者の立場として意見は特にない。個人的には広島一三次間の「どっちも割切符」の紹介があったが、庄原一三次間でも創設していただければ利用したい。

会長：

芸備線の議題に対していただいた各委員の意見を、事務局やJRをはじめ交通事業者でも受け止めていただき、これからまた色々展開していただきたい。また、公共交通会議でも鉄道について積極的な議論をしていきたいとのことで、本日は多くの意見交換ができたと思われる。これから第3回検討会議が行われたり、庄原市の取り組みが行われたりする中で、公共交通会議でも議論や交通計画の修正等にも取り組んでいきたいのでよろしくお願ひしたい。

## 5 その他

事務局：

本日配布した資料の中の「令和3年度 東城地域Ma a S実証運行 利用実績」を参考資料に、令和3年12月31日時点での利用実績について説明する。利用登録者としては132人が登録をし、帝釈地区と新坂地区で予約による運行事業を実施している。11月と12月の利用実績を記載しているが、今後も運行事業者及び自治振興区と情報共有を行いながら事業を実施し、また評価についても公共交通会議でも報告をしたい。

## 6 閉会